

## 3

## 函嶺蘆湖図

森琴石

一幅

絹本着色 明治二十四年（一八九一）  
本紙二二八・九×五〇・五



森琴石（一八四三～一九二一）は明治期に大阪で活躍した南画家である。本図は箱根の絶景である芦ノ湖に映る逆さ富士を描いたもの。「富嶽三十六景」など浮世絵にもしばしば見られる構図である。他の山々はそのぞいて、富士のみを湖面に映す表現は、現実的な描写の整合性よりも、画面の主要モチーフをより強く印象づけようとする意図からきたものだろう。前景の重なり合う松は彩色に濃淡をつけ、遠くの山並みも淡い色調におさえることで、遠近感を表現し

ている。明治二十四年三月に行われた日本美術協会の展覧会に出品された作品で、「布置難無ク筆致清爽ナリ」と評され銅牌を受賞、宮内省買上となった。この展覧会では、同年の歌会始の御題「社頭祈世」の他、「仁」「富士山」が課題とされ、本図の他にも数多くの富士を主題とした作品が展覧された。琴石はこの時、浪華学画会（浪華画学校）を代表して深田直城ら他十名とともに出品している。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

富士 ―山を写し、山に想う―

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 46

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年三月二十二日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections